

## 第2回 まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略検証委員会 議事要旨

日 時 平成30年8月8日(水) 13時25分～16時25分

場 所 養父市役所 3階 第2委員会室

### I. 進行状況等

#### 1. 開会

#### 2. 委員長あいさつ

#### 3. 議題

##### (1) 意見交換会

- ・やぶぐらし課
- ・農林振興課
- ・商工観光課
- ・健康課
- ・こども育成課

##### (2) 地方創生に対する市への意見について

#### 4. まとめ

#### 5. その他

#### 6. 閉会

### II. 委員の意見等

#### ◆地方創生・総合戦略について

- ・目標達成に向かっていても関わらず、人口減少はさらに深刻になっている。もう少しダイナミックに変えないといけないのかと感じる。
- ・市役所の業務として、戦略の事業評価に時間を使っているだけで良いのかを考えないといけない時期が来ているのではないか。
- ・市役所が全員で地方創生をやる。そういう市役所になってほしい。

#### ◆基本目標①について

- ・但馬地域と都市部では文化が違うことも踏まえることや、医療費などの自分に関係のあるサービスの充実度合いが重要だと考える方もいることに留意することが大切。
- ・制度のバランスが良いことが結果をもたらすとは限らない。バランスが良いとは特色がないものとも言える。
- ・大屋から広谷への流出などがあり、地域での過疎化に歯止めがかかっていないと感じる。
- ・お試し住宅を利用される方の移住率が高いのであれば、お試し住宅を増やしたほうが良い。また、大屋だけでなく市内全域で展開してはどうか。
- ・空き家バンクに登録された住宅もお試し住宅として活用できるのではないか。
- ・実際に養父市に住所を移した方からアドバイスをいただく「場」を設けることが大切。
- ・地域それぞれが人口を増やすためにどう移住者を迎え入れるのかを考えることが必要。

- ・空き家バンク利用者を増やすために、空き家バンクに畑や農機具付き物件を登録してはどうか。
- ・移住に関することは養父市の第一の施策である。HP活用などのアピールの仕方に工夫が必要。

#### ◆基本目標②について

- ・儲かる農業支援について、もう少し予算を充実させてもいいのではないかな。意欲のある人には、もっと充実しても良いと思う。
- ・養父市は特区によってどれくらい潤っているのか、思惑通りに進んでいるのかが市民にとってはわかりにくい。数字を言っていればよくわかる。
- ・バリューチェーン、サプライチェーンができかけている。今後どこまで発展できるか。
- ・雇用が一番効いてくる。雇用している状態だけで地域にお金の循環が生まれる。
- ・養父市は地域内でお金を回す部分が弱い。1次産業でさえ大変な状態であるが、6次産業化の取り組みにより市内で売的事业者がこれからどれだけ出てくるかが課題。
- ・特区事業者がいない地域でも、特区事業者のノウハウを地域に取り入れるようなやり方はできないか。新しいアイデアが必要。
- ・人と農地プランを養父らしさ（特区らしさ）として、戦略としてやってみてもいいのでは。
- ・いまのままでは、特定の事業者だけが儲かっているイメージがある。そうではなく、全体が変わってきていることを実感させることが必要。そこが養父市の腕の見せどころである。
- ・人と農地というのは農村で暮らす人々のコミュニティとしての持続性にもつながる。
- ・着地型のツーリズム開発を進めるDMOについて、地域全体の開発にはなっていない点をどうするかが課題。もう少し、戦略的にどうするかを考えないと、個別開発に留まり面的な開発に繋がらないまま終わってしまうのではないかな。
- ・DMOは大屋にこだわらなくてもいいのでは。もうすこし養父全体の魅力発信に繋がるようなことを考えることが必要。農業、空き家も含め、もう少し広げてみてはどうか。旧町単位でやるのがいいことなのかどうか考える時期に来ているのでは。
- ・DMOの取組みについて、今回、データ取得をはじめたことを第一歩として、情報を共有し、関係団体を増やしながらかつて協議していくことが必要と考える。目的を明確にすれば、民間事業者に委託した方が、低コストになるのではないかな。
- ・市内の人でも出歩くところがあまりないかな、どうやって地域全体で養父の観光をつくっていくのか知恵が必要。

#### ◆基本目標③について

- ・産後ケア事業について、ママ友づくりの機会として参加する方も多くいると感じる。子育てヘルパー事業利用者が減っているのも、この事業があるからか。
- ・利用数が少ないから戦略から外すという考え方をするより、それが子育て環境とどうつながっているのかというように考えることが大切。
- ・事業ごとの目標設定も含め、事業と事業の関わり方を考えるのは大事なこと。

#### ◆基本目標④について

- ・人が参加しやすい仕組みを考えるべき。シルバーという入りにくいけど、そうでない仕組みなら参加し易いかもしれない。
- ・事業評価シートの「市民連携」にチェックが入っているものもあるが、市民と一緒にやっている

という感覚がないのでは。

- ・自治組織はそれぞれ特色があるため一概には言えないが、こういう活動には成り手が少ないのが課題。名称でも自治会や協議会とバラバラであり、組織参加への強制力もない。いろいろな制約のなかでやっているのも、難しい。
- ・ICTを活用し、市民全体の健康状態を把握することも可能な時代なのでは。そういったことも企業に協力を求めながら進めてみてはどうか。

◆まとめ

- ・地方創生に沿って個別の事業は進んでいる。職員が努力して進めているのはわかる。人口減少はこれで終わりということはない。農ある暮らしをすすめるのであれば、ここを議論することが必要。
- ・明らかなキーになるのが移住。空き家などの有効活用を考える。大屋だけでなく市内全体で考えることが必要。
- ・また、広がりをごん風で考えるのかを試してみることが必要。それぞれの領域で提案できるような、実験できる、チャレンジできる仕組みを考えていかないと。現行の制度ばかりを使っはいけない。
- ・やっぱり住民が積極的に参加してもらわないと。住民の参加を作っはけるような、何か売りになるプロジェクトを考えるべき。
- ・個別の事業の工夫はそれぞれの取り纏めの成果の中でやっはらうとして、夢のある取り組みを。今効果が出ないから「妥当でない」ということでなく、夢のある取り組みを考えてほしい。
- ・そろそろ人口減少に歯止めをかける取り組みだけじゃなく、人口が仮に減っても、「ツーリズムを使っは何をするか」「農業でこんな町にしたい」「子育てでこんな町にしたい」というような夢のあるまちを考えてみることをしないと、どこも同じの地方創生の戦略に巻き込まれてしまう。組織にとっていい仕組みを準備し始めないと次の段階ではきびしいのでは。こういう思っはでやっはほしいなという思っはがある。